

Journal of ISOM Japan

国際東洋医学会日本支部会誌

人參養栄湯シンポジウム開催報告

東北大学病院 総合地域医療教育支援部・漢方内科 たかやま しん 高山 真

2019年12月1日、仙台市医師会館において、国際東洋医学会日本支部と東北大学病院漢方内科の共催で『人參養栄湯シンポジウム』が開催されました。

本シンポジウムはこれまでの人參養栄湯に関する諸研究や症例報告を総括し、人參養栄湯の全体像を伝統医学と現代医学の双方向から明らかにし、さらなる臨床応用に資することを目的として開催されました。演者は各分野で人參養栄湯の研究実績や使用経験を豊富に持つ方々をお招きし、人參養栄湯に関する研究やベストケーススタディを紹介して頂きました。



元雄良治先生の開会の辞

開催の準備には1年程を要しました。まず網羅的な文献検索が必要であったことから、人參養栄湯に関する国内外の論文、報告をシステムティックに検索し、臨床的レビューと基礎研究のレビューをもとに、シンポジストを決定し、ご講演の依頼を致しました。また、検索の結果から論文を吟味してレビュー作成し、英文誌 Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine に投稿し受理され公開となりました。作成した英文・和文のレビューをもとに要旨集（資料集）を作成し、開催当日までに製本が完了し無事参加者の方々への提供が可能となりました。

シンポジウムでは、元雄良治 国際東洋医学会会長に開会の辞をいただき、続いて第1部では加島雅之先生より『人參養栄湯の歴史的背景』についてご講演いただきました。第2部では高山真より今回作成したレビューをもとに『現代医学における人參養栄湯の立ち位置』について本シンポジウムの全体像をご紹介させていただきました。第3部では『人參養栄湯の臨床的エビデンスの構築に向けて』と題し、『悪性腫瘍患者の放射線照射に伴う白血球減少および自覚症状に対する人參養栄湯の有効性の検討』を大川智彦先生から、『大腸癌術後補助化学療法におけるオキサリプラチンの末梢神経障害に対する人參養栄湯の有効性と安全性：ランダム化第2相試験（HOPE-2）』を元雄良治先生から、『フレイルに対する人參養栄湯の臨床研究』について向

坂直哉先生から、『アルツハイマー型 認知症治療における人参養栄湯の臨床的検討と陳皮の作用機序』について工藤千秋先生からご講演いただきました。

今回のシンポジウムではランチョンセミナーを企画することもでき、株式会社ツムラからは『認知症の高齢者と漢方 ～尊厳ある生を支えるために～』について大澤誠先生から、クラシエ薬品株式会社からは『COPD 患者のフレイルに対する人参養栄湯の臨床応用と考察』について相良博典先生からご紹介をいただきました。



高野文英先生のご講演

午後の部では、第4部『人参養栄湯の基礎研究のエビデンス』と題して、『人参養栄湯のがん悪液質に対する効果』について大澤匡弘先生から、『人参養栄湯の記憶障害モデルにおける研究』について江頭伸昭先生から、『人参養栄湯の抗がん剤による神経障害性疼痛モデルにおける研究』について牧野利明先生から、『人参養栄湯の抗がん剤による血液障害モデルにおける研究』について高野文英先生からご講演をいただきました。引き続き、第5部では『人参養栄湯のベストケーススタディ』と題して、『漢方薬治療が奏効した広範な咽頭血管奇形の1例』について小川恵子先生から、『漢方治療が奏効したと思われる肺 *Mycobacterium fortuitum* 感染症の1例』について野上達也先生から、『漢方薬治療が奏効した全身性サルコイドーシスの1例』について杉野圭史先生からご講演をいただきました。

最後の総合討論では、安井廣迪先生に総合司会をいただき、加島先生、大川先生、江頭先生、小川先生よりそれぞれのパートの総括をいただき、今後の展望などについて討論しました。最後に、吉富誠 国際東洋医学会日本支部長より閉会の辞をいただき無事終了となりました。最終的な参加者数は80名でした。

最後の総合討論では、安井廣迪先生に総合司会をいただき、加島先生、大川先生、江頭先生、小川先生よりそれぞれのパートの総括をいただき、今後の展望などについて討論しました。最後に、吉富誠 国際東洋医学会日本支部長より閉会の辞をいただき無事終了となりました。最終的な参加者数は80名でした。

現在、当日の講演の様子を動画で視聴できるように、東北大学医学部 Internet School of Tohoku University との連携で編集を行っているところです。準備が整いましたら国際東洋医学会日本支部のホームページに告知させていただきます。



総合討論の様子

開催にあたり、先生方より、シンポジウムの感想をいただいておりますので一部をご紹介します。

・今まで人参養栄湯はかなり虚している患者様や肺疾患で消耗している患者様に使うという印象であったので処方頻度は少なめでした。今回の人参養栄湯シンポジウムで、基礎研究や臨床研究のエビデンスに触れ、また、漢方処方の経験が長い先生方のお話も多数聞けたので、具体的な

イメージをつかむことができ、症状のきっかけが体力の消耗している場合や、しびれに対し牛車腎気丸で効果がなかった場合や、フレイルの場合などに処方するに至りました。人参養栄湯に含まれる陳皮には認知症悪化予防の効果があることも知って、ミカンの皮は捨てずに干してお茶にしてみました。教科書には載っていない知識を1日で勉強できたので、とても有意義な時間になりました。

・今回の人参養栄湯シンポジウムは、プログラムが大変良い内容でした。1日を通して人参養栄湯に関する歴史、臨床研究(RCT)、基礎研究、症例報告、総合討論と非常にわかりやすくまとめられており、勉強になりました。これまでの知見が系統立てて整理されているところが素晴らしかったと思います。どの漢方薬に関してもそうですが、まだまだ研究の余地はあり、今後さらに質の高いエビデンスの構築の必要性を感じました。

ご協力をいただきました国際東洋医学会日本支部の先生方、演者の先生方、東北大学病院の先生方に心から感謝申し上げます。本シンポジウムの内容を、今後の臨床、研究などに活用していただければ幸いです。

第20回国際東洋医学会学術総会ご案内

国際東洋医学会は、2～3年に一度、学術総会を開催してきています。前回は、2018年11月に台湾は台北大学医院国際会議センターで開催されたことを、前々回のニューズレターで報告したとおりです。

次回の第20回国際東洋医学会学術総会(the 20th ICOM 2020)は、2020年10月30日(金)～11月1日(日)に、韓国ソウル市東大門区にある、慶熙大学校韓医学部およびクラウン館(Kyung Hee University, College of Korean Medicine and Crown Hall)にて、大会テーマ「Traditional Medicine Evolving into Integrated Medicine」として開催されます。会場はどちらも慶熙大学校のメインキャンパス内にあり、ソウル地下鉄1号線または首都圏電鉄京義・中央線の回基(フェギ)駅から徒歩で約15分ほどの距離にあります。

日本支部としては、日本セッションとして3時間のシンポジウムを企画するほか、韓国からの要請で、生薬の安全性に関するシンポジウムで日本の現状をシンポジストとして登壇する予定です。

1月末現在で、まだWebページも出来ていない状態ですので、開催の詳細やプログラム、一般演題登録方法などは、適宜、国際東洋医学会本部 <http://en.isom.or.kr/main/> または、日本支部 <http://plaza.umin.ac.jp/~ISOMjpn> のホームページをご確認下さい。



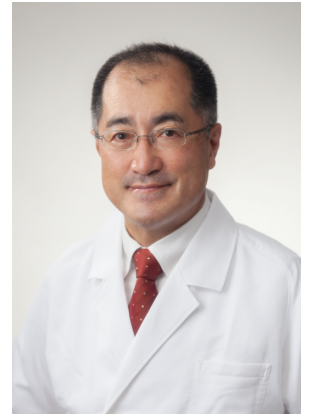
慶熙大学校のWebページから

日本支部理事長就任のご挨拶

梶原町立国保梶原病院 よしみ まこと
吉富 誠

ご挨拶が遅れましたが、2019年年初に国際東洋医学会日本支部理事長を拝命しました吉富誠です。2018年11月台湾での国際東洋医学会理事会で日本支部理事長だった元雄良治先生が国際東洋医学会会長に就任なさいました。元雄先生の後任として私が日本支部理事長に就任いたしました。

私は相見三郎先生の弟子であった父の影響で、学生時代より漢方医を志しました。28年前にソウルに留学し、鮮于基先生に師事しました。国際東洋医学会を設立された、裴元植先生にも留学中から親しくお付き合いいただきました。帰国後、室賀昭三先生より国際東洋医学会日本支部の理事を申しつかり、以降本学会に関わらせていただいています。鮮于基先生や裴元植先生への恩返しのつもりで日韓の東洋医学交流に尽力してきました。



熊本にて12年間自由診療の漢方専門医院を開業していましたが、3年前から高知県の山里に暮らして地域医療に従事しています。

韓国支部の人事異動の影響で、事務総長人事問題や次回学術総会開催地の変更問題など昨年1年間は振り回されましたが、元雄会長のリーダーシップのおかげで、正常化しつつあります。第20回国際東洋医学会学術総会（the 20th ICOM 2020）は今年10月30日より11月1日までの日程で、韓医科大学の名門である慶熙大学にて開催されます。ふるってご参加ください。

国際標準化による利益独占の動きを牽制するためにも、日本・韓国・台湾が中心になって運営している国際東洋医学会の存在意義は益々重くなってきています。会員の皆様のご協力よろしくお願いたします。

本ニューズレターの発送と同時に、年会費振り込み用紙を同封いたしました。お振り込みよろしくお願いたします。

略歴：

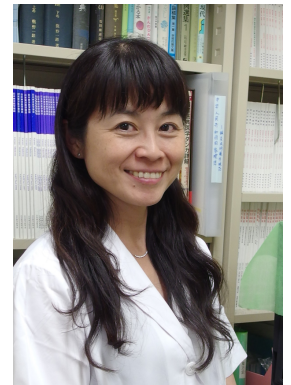
昭和60年佐賀医科大学医学部卒業。同年、熊本赤十字病院研修医。昭和62年神戸大学大学院医学研究科研究生。昭和63年熊本赤十字病院消化器内科。平成4年寿東漢医院（韓国ソウル特別市）にて漢方医学研修。平成5年公立菊地養生園診療所 診療部長。平成17年吉富復陽堂医院開業。平成29年梶原町立国保梶原病院

現在、日本救急医学会専門医、日本東洋医学会専門医、日本中医学会理事、熊本大学医学部非常勤講師

ISOM-Japan 理事新任ご挨拶

金沢大学附属病院 漢方医学科臨床教授 おがわ けいこ 小川 恵子

私が漢方医学を勉強するようになったきっかけは、研修医2年目の春に、業務に支障を来すほど困っていたアレルギー性鼻炎が小青竜湯で治った私自身の経験に始まります。研修医として勤務していた病院の救急外来に、太陽病の処方常備してもらい、風邪の初期の救急診療が非常にやりやすくなりました。その後小児外科を専門とするようになってからも、術後の困った症状に漢方方剤を処方して更に効果を実感しました。そして、独学でこれほど有用であるなら、きちんと勉強をすれば、ものすごい



break throughになるのではないかと思い、集中して正統な漢方医学を学ぶため、千葉で漢方を専門で研修しました。ここでは、『傷寒論』や『金匱要略』を重視する古方派の中でも、千葉古方派という考え方を身につけることができました。また、同時に東方会に入会し、鍼灸の勉強も開始しました。私は漢方医学について、2年くらい勉強すれば、エキスパートになれると甘く考えていました。しかし、実際に勉強しはじめると、非常に奥が深い学問で、現在もまだまだ勉強中です。私の漢方医学に対する学習意欲の原点には小児医療への熱意がありその思いは小児外科を専門にしていた時と変わりません。国際東洋医学会の活動を通じて世界の患者さんの役に立ちたい、と考えています。

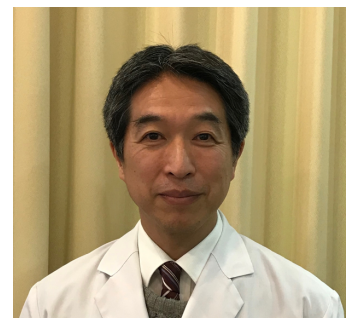
略歴：1997年名古屋大学医学部卒業。同年名古屋第一赤十字病院にて外科研修。1999年名古屋第一赤十字病院常勤医。2002年名古屋大学医学部小児外科非常勤医。2004年名古屋第二赤十字病院小児外科常勤医。同年名古屋大学大学院医学研究科博士課程終了（医学博士）。2005年あいち小児保健医療総合センター医長。2006年あきば伝統医学クリニック常勤医。2007年千葉大学医学部附属病院和漢診療科医員。同緩和ケアチームにも所属。2011年金沢大学附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 和漢診療外来 特任准教授、2014年同漢方医学科臨床教授。

日本東洋医学会指導医、日本外科学会専門医、日本小児外科学会専門医。

松花堂マツヤ薬局・東邦大学医学部東洋医学研究室 客員講師 ふえき つかさ 笹木 司

このたび新しく理事を拝命いたしました笹木です。新潟の田舎町で漢方専門薬局を営む傍ら、多くの敬愛する先生方のご指導を仰ぎつつ研究の真似事を行っております。

何分にも浅学非才の身ではございますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



略歴：金沢大学大学院自然科学研究科生命科学専攻卒業。薬剤師・博士(薬学)。松花堂マツヤ薬局代表取締役。東邦大学医学部東洋医学研究室 客員講師。

2020 年度 ISOM-Japan 理事一覧

2020 年 1 月からの理事を以下の先生方にお務めいただくことに決定いたしましたので、会員の皆様にご報告申し上げます。以下、敬称略、五十音順。

1. 大山 雅義（岐阜薬科大学）：広報，日本支部ニューズレター編集担当
 2. 小川 恵子（金沢大学附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・和漢診療外来）
 3. 尾崎 和成（市立伊丹病院老年内科）
 4. 貝沼 茂三郎（九州大学病院総合診療科）
 5. 加島 雅之（熊本赤十字病院内科）
 6. 齊藤 宗則（明治国際医療大学）
 7. 高山 真（東北大学病院漢方内科）：ISOM 理事（漢方担当）
 8. 津谷 喜一郎（東京有明医療大学）
 9. 友利 寛文（那覇市民病院外科）
 10. 永井 良樹（日本赤十字社医療センター内科）：ISOM 理事（漢方担当）
 11. 永田 豊（諏訪中央病院東洋医学科）
 12. 並木 隆雄（千葉大学大学院和漢診療学）
 13. 笛木 司（松花堂マツヤ薬局・東邦大学医学部東洋医学研究室）
 14. 福間 裕二（日高病院泌尿器科）
 15. 牧野 利明（名古屋市立大学大学院薬学研究科）：ISOM 副事務総長・日本支部事務局長
 16. 宮崎 瑞明（塩浜宮崎医院）：ISOM 理事（台湾担当）
 17. 元雄 良治（金沢医科大学腫瘍内科学）：ISOM 理事長
 18. 山岡 傅一郎（愛媛県立中央病院漢方内科）：ISOM 理事（漢方担当）
 19. 山下 仁（森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科）：ISOM 理事（鍼灸担当）
 20. 吉富 誠（栲原町立国保栲原病院）：ISOM 理事（韓国担当）・日本支部理事長（支部長）
- 監事 小根山 隆祥（元事務局長）、安井 廣迪（元日本支部理事長、安井医院）

日本支部の益々の発展のために理事一同献身して参りますので、会員の皆様におかれましては今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

Journal of ISOM Japan 2020 No. 1

発行日 2020 年 1 月 25 日

編集者 ニューズレター編集委員会

発行者 大山雅義

発行所 国際東洋医学会日本支部 (ISOM Japan)

国際東洋医学会日本支部

ISOM Japan

名古屋市瑞穂区田辺通 3 - 1

名古屋市立大学薬学部生薬学分野内

TEL&FAX 052-836-3416

E-mail: isomjapan@gmail.com

ウェブサイト <http://isomjpn.umin.jp/>